

500  
経営編



510 決算

511 酪農経営の  
決算

# 酪農経営の決算

1年間の経営活動は図のような流れの中で展開されている。その中で期間中の損益の発生状況と期末における財産状態を損益計算書と貸借対照表の作成で明らかにする。この作業手続きを決算という。これを基に確定申告書を作成し、今期の経営の反省、また次期の経営計画の策定などを行う。

今回は確定申告を前提とした決算の一連の流れについて説明する。

決算は次のような順序で行われる。

1. 諸帳簿の年間合計額の計算
2. 棚卸表の作成
3. 諸帳簿の整理
4. 決算書類の作成



図 経営のマネジメントサイクル

## 1. 諸帳簿の年間合計額の計算

諸帳簿に記入されている事項について領収証や納品書、請求書、預金通帳などと照合して記入もれや誤りがないか確認し、それらの年間合計金額を計算する。

現金残高と帳簿残高が符合せず、その原因もわからない場合、超過分は雑収入あるいは事業主借とし、不足分は事業主貸として処理する。

## 2. 棚卸表の作成

期末における棚卸を行い、棚卸表を作成する。

棚卸の種類には以下のものがある。

- ・ 原材料：飼料、肥料、農薬、諸材料など。
- ・ 仕掛品：立毛、肥育畜、育成畜、サイレージ、乾草など。
- ・ 生産物：穀類、果実、野菜など。

棚卸の評価方法には以下のものがある。

- ・ 原価法：取得原価(取得にかかった総費用)。家畜の評価はこの方法による。
- ・ 時価法：棚卸日の再取得価格(棚卸日時点での価格)。
- ・ 低価法：棚卸日の時価と原価のいずれか低い方。



子牛の棚卸評価は、出生時の流通(ヌレ子)価格(購入の場合は購入価格)に育成費用を加算した額とする。育成牛の棚卸評価は、各地域が公表する基準評価額に沿って記入する。他に簡便法として種付費または素畜費、飼料費を評価額とする。

### 3. 諸帳簿の整理

すでに記帳された中には、当期の収入や必要経費にならないもの、あるいは記帳されていないものでも当期の収入や必要経費に計上すべきものがある。年末決算にあたりこのようなものを調べて整理し、正しい金額を把握する必要がある。

#### (1) 収入

##### ① 前受金

生産物を引き渡す前に受け取った前受金で、期末時点で生産物の引き渡しをしていないものは収入から除外し流動負債に計上する。

##### ② 家事用・事業用に消費した生産物

家事用あるいは事業用に消費した生産物はその金額を見積もり、収入に計上する。

事業用に消費した場合は収入に計上するとともに、同額を必要経費に見積もる。

#### (2) 必要経費

##### ① 前払費用

保険料の計算期間が翌年以降にまたがる場合のそれに対応する保険料や雇人に対する給料の前払い、材料代の前払いなどの場合には必要経費から除外し流動資産に計上する。

##### ② 家事費・家事関連費

火災保険料、固定資産税、修繕費などのうちに含まれている住宅部分に対応する費用や、水道光熱費、電話料などのうちに含まれる家事分の費用は区分する(明確でないものは按分する)。

#### (3) 減価償却費の計算方法

建物・構築費、農業機械、車両運搬具、乳用成牛は、固定資産台帳に記帳し償却費を計算する(土地、建設中の固定資産、育成牛などはこれに含まれない)。

減価償却費の計算方法としては次のものがある。

##### ① 定額法：定められた耐用年数の毎期に同額の減価償却費を計算する。

$$\text{償却額} = \text{取得価格} \times \text{償却率(定額法)}$$

##### ② 定率法：毎期の帳簿価格に一定率を乗じ、各期間の減価償却費を計算する。

$$\text{償却額} = \text{帳簿価格} \times \text{償却率(定率法)}$$

定率法は、生物以外の有形減価償却資産について、青色申告者で税務署に届出をした場合に限る。



#### 4. 決算書類の作成

諸帳簿の決算整理に基づいて決算書類を作成する。事業所得のほか不動産所得、山林所得がある場合にはその分についても別途作成する。

決算書類には以下のものがある。

- ・ 貸借対照表(表1)
- ・ 損益計算書(表2)
- ・ 製造原価報告書(表3)
- ・ 販売費及び一般管理費の明細(表4)

表1 貸借対照表の書式

①法人

##### 貸借対照表

(株)□□牧場 ○年 ○月 ○日現在 (単位: )

項目	金額	項目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
I. 流動資産		I. 流動負債	
II. 固定資産		II. 固定負債	
(有形固定資産)		負債合計	
(無形固定資産)		(純資産の部)	
(投資その他の資産)		I. 株主資本	
III. 繰延資産		(資本金)	
		(剰余金)	
		純資産合計	
資産合計		負債・純資産合計	

②個人

##### 貸借対照表(資産負債調)

□□牧場 ○年 ○月 ○日現在 (単位: )

項目	金額	項目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
(流動資産)		(流動負債)	
(固定資産)		(固定負債)	
(投資その他の資産)		(純資産の部)	
		(事業主借)	
(事業主貸)		(元入金)	
		(所得金額)	
合計		合計	



表2 損益計算書の書式

損益計算書						(単位: )
□□牧場		自	○年 ○月 ○日	至	○年 ○月 ○日	
<b>I. 売上高</b>						
生乳売上高		×	×	×		
生物売却収入		×	×	×		
作業受託収入		×	×	×		
価格補填収入		×	×	×		
その他事業売上高		×	×	×		
				×	×	(売上高の合計) ..... ①
<b>II. 売上原価</b>						
期首製品棚卸高		×	×	×		
当期製品製造原価		×	×	×		
生物売却原価		×	×	×		
△期末製品棚卸高		×	×	×		
△事業消費高		×	×	×		
				×	×	(売上原価の合計) ..... ②
<b>売上総利益</b>				×	×	(①-②) ..... ③
<b>III. 販売費及び一般管理費</b>						
				×	×	(販売費及び一般管理費の合計) ..... ④
<b>営業利益</b>				×	×	(③-④) ..... ⑤
<b>IV. 営業外収入</b>						
受取利息		×	×	×		
受取配当金		×	×	×		
受取共済金		×	×	×		
一般助成収入		×	×	×		
作付助成収入		×	×	×		
雑収入		×	×	×		
				×	×	(営業外収入の合計) ..... ⑥
<b>V. 営業外費用</b>						
支払利息		×	×	×		
保証料		×	×	×		
生物死亡原価		×	×	×		
廃畜処分損		×	×	×		
雑費用		×	×	×		
				×	×	(営業外費用の合計) ..... ⑦
<b>経常利益</b>				×	×	(⑤+⑥-⑦) ..... ⑧
<b>VI. 特別利益</b>						
固定資産売却益		×	×	×		
受取共済金		×	×	×		
国庫補助金収入		×	×	×		
				×	×	(特別利益の合計) ..... ⑨
<b>VII. 特別損失</b>						
固定資産売却損		×	×	×		
固定資産除却損		×	×	×		
災害損失		×	×	×		
				×	×	(特別損失の合計) ..... ⑩
<b>税引前当期純利益</b>				×	×	(⑧+⑨-⑩) ..... ⑪
法人税・住民税・事業税		×	×	×		..... ⑫
<b>当期純利益</b>				×	×	(⑪-⑫)



表3 製造原価報告書の書式

製造原価報告書	
□□牧場	自 ○年○月○日 至 ○年○月○日 (単位: )
<b>I. 材料費</b>	
期首材料棚卸高	
期首材料仕入高	
合 計	
期末材料棚卸高	
<b>II. 労務費</b>	
賃金手当	
福利厚生費	
作業用衣料費	
<b>III. 外注費(製造経費)</b>	
作業委託費	
診療衛生費	
預託料	
ヘルパー利用料	
<b>V. 製造経費</b>	
農具費	
修繕費	
動力光熱費	
養畜費	
共済掛金	
減価償却費	
地代賃借料	
土地改良費	
租税公課	
<b>当期総製造費用</b>	
期首仕掛品棚卸高	
△育成費振替高	
△期末仕掛品棚卸高	
<hr/>	
<b>当期製品製造原価</b>	

表4 販売費及び一般管理費明細の書式

販売費及び一般管理費の明細	
□□牧場	自 ○年○月○日 至 ○年○月○日 (単位: )
役員報酬	
給料手当	
荷造運賃・販売手数料	
交際費	
会議費	
旅費交通費	
事務通信費	
車両費	
図書研修費	
租税公課	
諸会費	
雑費	
<hr/>	
<b>合計</b>	